

グループ理念、会社概要、財務ハイライト、目次、編集方針

トップメッセージ

サステナビリティに関する取り組み推進

サステナビリティに関する取り組み推進方針
サステナビリティに関する取り組み推進体制
マテリアリティに基づくKPI・目標
ステークホルダー・エンゲージメント
イニシアチブへの参加
サステナビリティに関する外部評価

環境

TCFD提言に基づく情報開示
TNFD提言に基づく情報開示
環境マネジメント
脱炭素社会の推進
自然災害対策
生物多様性
水資源
循環型社会の推進
環境配慮に関する外部評価・認証
サステナビリティファイナンス

社会

人権の尊重
サプライチェーンマネジメント
品質・お客様満足の向上
不動産ストックの再生・活用
地域社会・コミュニティへの貢献
人材開発
健康経営／労働安全衛生
ダイバーシティ&インクルージョン

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
コンプライアンス

データ集

第三者保証

生物多様性

方針・考え方

当社グループは、「グループ環境方針」に「緑あふれる潤いのある街・暮らしの創造」を掲げ、不動産開発と密接に関係している地域の生態系や自然環境に直接的または間接的に及ぼす影響の把握と、適切な配慮に努めています。緑が持つ力を最大限に活かし、開発計画に合わせた敷地内の樹木の移植、地域の在来植物の植生や生物分布の調査、植えるべき樹種の選定など、生物多様性に配慮した、豊かで快適な環境の創出に取り組んでいます。

当社はビル事業と住宅事業において、それぞれ環境ガイドラインを策定しています。両ガイドラインでは、建物・敷地の緑化や緑化によるヒートアイランド現象の緩和、周辺の緑との連携も含んだ生物多様性や生態系の保全の実現、テナント様や入居者様および周辺エリアとの緑を通じたコミュニケーションの実施などを取り組み方針として定めています。さらに一定規模の取り組みができる物件では、既存樹木等の保全と生態系保全に関するABINC認証^{*1}やSEGES^{*2}などの第三者認証を取得しています。

※1 一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)が作成した「いきもの共生事業所[®]推進ガイドライン」および「土地利用通信簿[®]」を認証基準として、オフィスビルや集合住宅などの土地利用における生物多様性保全の取り組みを評価・認証する制度。
※2 緑地の社会・環境価値を「見える化」する、公益財団法人都市緑化機構による社会・環境貢献緑地評価システム。

□ サステナビリティに関する外部評価 (P.16)

□ TNFD提言に基づく情報開示 (P.22)

□ 環境マネジメント (P.28)

生物多様性保全や緑地の創出に関連する第三者認証の例



生物多様性・生態系に関する取り組み

● 生物多様性・生態系リスク評価の実施

当社は、不動産開発を行う際に、法令に基づき、必要に応じて環境影響評価(環境アセスメント)を実施するなど、樹木や樹林などの保存・移植、保全などに努めています。

また、既存のビルにおいても、植栽の管理計画の作成および維持管理、定期的なモニタリング・改善計画の提案により、緑地と生態系の保全に努めています。東京スクエアガーデン(東

京都中央区、2013年3月竣工)や、大手町タワー(東京都千代田区、2014年全体竣工)では、緑地の管理・モニタリングに関するマニュアルを定めています。灌水や剪定、除草、施肥等の維持管理について計画的に実施するとともに、樹木医等の専門家と連携し、導入植物の生育状況や病害虫、外来種の侵入状況等を定期的に確認しています。これらの取り組みにより、生物多様性へのリスクを早期に把握し、必要に応じて適切な措置を講じることで、都市における安定的な緑地・生態系の維持に努めています。

● グリーンフィールド開発に関するコミットメント

当社は、未利用・低利用の土地で不動産開発を行う場合、地域の生態系や自然環境に直接的または間接的に及ぼす影響を必要に応じて把握し、適切な配慮をしたうえで事業を行っています。

● 生物多様性・生態系に関する外部との協働

当社は、イニシアチブや業界団体とも協働しながら、生物多様性・生態系の保全に取り組んでいます。一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)により設立された「経団連自然保護協議会」に入会するとともに、経団連と当該協議会により設立された「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参加しています。また2022年より、事務局の環境省および発起人の経団連などが中心となって推進する「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加し、30by30目標^{*}に賛同のうえ、生物多様性に関する各種取り組みを推進しています。

さらに当社は、一般社団法人不動産協会の環境委員会に委員長を継続して輩出しています。同委員会が策定した「不動産業環境実行計画」において、「自然環境・生物多様性保全」を環境行動目標の一つとして掲げています。

※ 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。

□ イニシアチブへの参加 (P.14)

都市における取り組み

● 緑地や水景の創出

当社は、緑地の限られた都市部においても、一定規模の緑地や水景の創出を積極的に進め

グループ理念、会社概要、財務ハイライト、目次、編集方針

トップメッセージ

サステナビリティに関する取り組み推進

サステナビリティに関する取り組み推進方針
サステナビリティに関する取り組み推進体制
マテリアリティに基づくKPI・目標
ステークホルダー・エンゲージメント
イニシアチブへの参加
サステナビリティに関する外部評価

環境

TCFD提言に基づく情報開示
TNFD提言に基づく情報開示
環境マネジメント
脱炭素社会の推進
自然災害対策
生物多様性
水資源
循環型社会の推進
環境配慮に関する外部評価・認証
サステナビリティファイナンス

社会

人権の尊重
サプライチェーンマネジメント
品質・お客様満足の向上
不動産ストックの再生・活用
地域社会・コミュニティへの貢献
人材開発
健康経営／労働安全衛生
ダイバーシティ&インクルージョン

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
コンプライアンス

データ集

第三者保証

生物多様性

ています。大手町タワーでは、敷地全体の約3分の1(約3,600m²)に及ぶ緑地「大手町の森」を整備しました。高層ビルが林立するオフィス街で「本物の森」を再現するこの取り組みは、生物多様性保全に関するABINC認証を取得したほか、快適で安全な都市緑地を提供する取り組みを認定するSEGESの「都市のオアシス^{※1}」に認定されるなど、高い評価を受けています。2023年には環境省実施の30by30目標の達成に寄与する「自然共生サイト^{※2}」として認定されました。



また、2025年3月には、国土交通省が創設した「優良緑地確保計画認定制度(TSUNAG)^{※3}」の初回認定にて、「大手町の森」が最高ランクとなる「トリプル・スター」を取得しました。CO₂吸収や炭素固定、生物多様性の確保、ウェルビーイングにつながるイベントの実施などの取り組みが評価されました。さらに、2025年12月には、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(国土交通省主幹)が主催する第6回グリーンインフラ大賞において最高位である国土交通大臣賞を受賞しました。都市部における大規模緑地の創出に加え、維持管理フェーズにおける生物多様性への配慮や継続的な維持管理、地域に開かれた緑地活用の取り組みなどが評価されています。



※1 SEGESにおける認定の一つで、快適で安全な都市緑地を提供する取り組みを認定する制度。
※2 日本における30by30目標の達成に向けた環境省の施策の一つ。民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている地域を、環境省が認定する仕組み。
※3 都市緑地法に基づき、企業等による良質な緑地確保の取り組みを、気候変動対策・生物多様性の確保・Well-beingの向上等の「質」と緑地の「量」の観点から、国土交通大臣が評価・認定する制度。

大手町タワーの「大手町の森」の特徴

「本物の森」を再現

千葉県君津市の山林に約1,300m²の実証実験施設「プレフォレスト」を確保し、計画地と同じ生育環境を設け、約3年かけて施工方法や植物の生育、適切な管理方法を検証し、育成した土壌や樹木・地被類を移植。

生物種のモニタリング調査の実施

モニタリング調査の結果、当初約100種だった樹木・地被類が、競争・適者生存の後、2021年には約200種を記録。なかには国や都のレッドリストに記載される希少種も確認。

周辺緑地への生態系保全にも貢献

近隣の皇居には多くの鳥類や昆虫類が生息することから、周辺緑地とのネットワークにより地域の生態系に貢献。すでに複数の鳥類が定着し、渡り鳥のほか、皇居からの飛来と思われるトンボなど、約130種を確認。

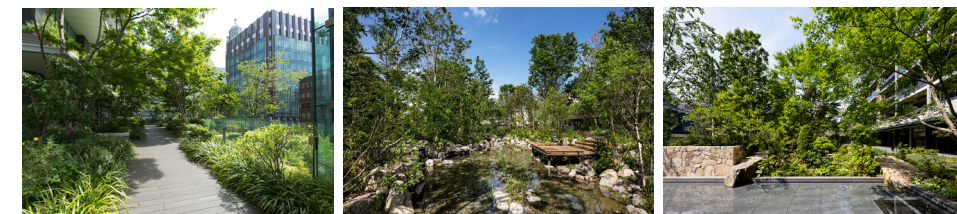
「大手町の森」で確認された生物の例



スジグロシロチョウ タカ カタクリ ヤマザクラ ヤブツバキの花とメジロ タヌキ ハヤブサ

緑地創出の取り組み事例

東京スクエアガーデン「京橋の丘」(2013年3月竣工)	東京都中央区	<ul style="list-style-type: none"> 地下1階から5階(約3,000m²)に及ぶ立体的緑化空間を設置 緑が集積していることで都心のクールスポットとなり、ヒートアイランド対策に寄与
Brillia Towers 目黒(2017年12月竣工)	東京都品川区	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に森の広場を整備し、樹木約900本の植栽と水路を設置 近隣の国立科学博物館附属自然教育園などと連携し、地域の生態系の維持・拡大に貢献
ののあやま民活棟(2020年5月竣工)	東京都港区	<ul style="list-style-type: none"> 青山の地形や水脈を活かした約3,500m²の大規模緑地空間・ピオトープを整備 明治神宮などの周辺地域の潜在植生や生態系に配慮した植栽計画による樹林を形成
Brillia City 西早稲田「インナーフォレスト」(2022年5月竣工)	東京都豊島区	<ul style="list-style-type: none"> 「山手線内側で森と生きる」をコンセプトに敷地内に約680m²の緑地を設置 自治体による動植物生態調査等をもとに地域のポテンシャルを活かし、生物多様性に配慮した緑地づくりを実施 歩行者の視点を意識し、外構部に緑地を整備することで地域に開かれた空間を設計
Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING RESIDENCE(2022年9月竣工)	東京都多摩市	<ul style="list-style-type: none"> 多摩川の自然と連続性のある緑豊かな約5,000m²の公開空地を整備 在来種中心の樹木の選定など、周辺地域特性に配慮した緑化計画で、みどりのネットワーク形成に寄与(緑化率38%) 地域との調和・共生の観点から、多摩市内で初めてABINC認証を取得
都立明治公園「誇りの杜」(2023年10月開園)	東京都新宿区	<ul style="list-style-type: none"> 約60種・約700本の常緑樹・落葉樹を新たに植栽 落ち葉などを敷き詰めることで生態系が活発となる土壌環境を整備するなど、都民とともに時間をかけて育てる“ハーフメイドの杜づくり”を推進 東京都初の公募設置管理制度(Park-PFI)を活用



東京スクエアガーデン 京橋の丘 ののあやま民活棟 緑地空間内ピオトープ Brillia City 西早稲田 インナーフォレスト